established in 1964.
INVESTMENT
Weekly Report

Weekly

2017年 (平成 29年)



発行 株式会社投資日報社 www.toushinippou.co.jp/

第9巻 第1号 通巻 377号

NYダウ相場 ~ギャン理論から見た株式~ 2017 年の展望*ャンアナリスト 中原 駿

【6の年から7の年へ】

ギャン理論から見たNYダウの「6」の年は強い。昨年5月16日号で筆者は「6」の年の過去のパターンを挙げた上で、次の通り述べた「…年前半は強気でよいが5月のアニバーサリー前後ではいったんスクエアにして、上下にかかわらず、7月以降に再投資を検討するのがよい。その意味では重要な時期に入っているとみなす事が出来るだろう」。実際、昨年の相場は1月20日に15,450を記録して以降、通年で上昇した。ただ6月末にBREXIT騒動で急落しているので、実際に買えたのはその後からであろう。それでも十分な成績になったといえる。最終的には「6」の年は強気のままで終了した。

1937年【下落◎】・・・縮小均衡となった 37年不況

1947 年【上昇△】・・・ 大戦後不況継続(マーシャルプラン)

1957年【下落◎】・・・ アイゼンハワーリセッション

=鉱山閉鎖が相次ぐ

1967 年【上昇◎】・・・ベトナム戦争激化「黄金の 60 年代」 1977 年【下落◎】・・・カーター大統領 1 年目、貿易赤字拡大

1987年【上昇△】・・・ルーブル合意とブラックマンデー

1997 年 【上昇◎】・・・ アジア通貨危機も世界は経済拡大 2007 年 【上昇△】・・・ サブプライムローン危機が徐々に顕在化

さて「7」の年である。年始から 15% 以上の上昇を見せたのは 1967 年と 1997 年のみ。1947 年、1987 年、2007 年の上昇率は各々 2.2%、2.3%、6.5%と非常に低かった。

また年初からの上昇が $2 \sim 3$ 月または 8 月前後に大きくトップアウト、特に $9 \sim 10$ 月の下落が非常に大きかった。1987 年のブラックマンデーは歴史的であったが 1967 年、1977 年、1997 年もかなりの下落している。新年始値より下げない確率は62.5%だが、10%以上上がる確率は25%に過ぎず、これは米国株式の歴史ではかなり低い方である。逆に下落確率は37.5%。最大の上昇率は1997年の22.4%、最低は1937年の32.8%。「7」の年全体での収益の期待値は1.73%とマイナスである。

また「6」の年からの上昇がトップアウトすることも印象的。「6」の年の7月または9~10月にスタートした強気相場が、翌年8~10月にトップアウトするのが習性となっている。今回の相場は底こそ1月だが、BREXITの6月末を実質的起点とみなす事も出来るので「6の年から7の年へ」の強気相場波動をなぞっているとも考えられる。その場合、端的に言えば「年前半の反騰相場に如何に上手に乗るか、更にその後の下落をどう凌ぐか」が勝負になると言えるだろう。

【長期サイクル】

元々ギャン理論は、W.D.ギャン氏が米国株式と米国商品市場のために開発した理論である事から、その独自の理論とともに非常に親和性が高く、また現在でもかなり有効だと考える。

く90年サイクル>

NYダウには有効な 90 年サイクルが存在している。彼はこのサイクルから「スクエア・オブ・90」という価格と時間の均衡チャートを造った程。 90 年サイクルは大不況の 1932 年にボトムアウトしたものと想定される。 90 年サイクルは、 1/2 の 45 年サイクル、 1/3 の 30 年サイクル、 1/4 の 22.5 年サイクル、 1/6 の 15 年サイクル、 そして 1/8 の 11.25 年サイクルがいずれも重要である。

く72年サイクル>

72 年サイクルは、ギャン理論の中枢でもあるスクエア理論から創出されている。最も重要なのは $6 \times 6 = 36$ 、 $(6 \times 6) \times 2 = 72$ 、 $(6 \times 2) \times (6 \times 2) = 144$ である。

6は、安息日である日曜日を除いた、人間の1週間の活動日。 従って強力なサイクルである。そのスクエアである 36 をベース にその倍の 72、更にその倍の 144 は最も強力なサイクルである。

144 年は、あまりに長すぎて現実的ではなく、次に有効なのは 72年。このサイクルも1932年にボトムアウトしたと想定される。

< 45 年サイクル、及び関連長期サイクル>

90 と 72 のスクエアから導き出される長期サイクルボトムは、

72 年サイクルは、36 年ハーフサイクル、24 年 1 / 3 サイクル

18年1/4サイクル、12年1/6サイクル、そして9年1/8

45年サイクル= 1974年 12月、次は 2019年 \pm 9年

36年サイクル=1974年12月、2010年±6年

18年サイクル=1974年、1990年10月、2010年±2年

6年サイクル = 1998年8月、2002年2月、2009年3月、 (2015年8月)? (5~8年)

以上のサイクル分析から見て、36年、18年サイクルは同時に 2009年3月、2015年8月にボトムをつけたものと想定される。

<4年サイクルの位相>

サイクルが重要になる。

2009年3月に終了した18年サイクルは、内包する第一4年サイクルを2012年11月に完了した。4年サイクルは2年ハーフサイクル2つか、15.5カ月サイクル3つで構成されている。現在、第二4年サイクルの第三位相か、第三4年サイクルの第一位相と想定される。

前者の場合、2015年8月の安値を起点にした第三15.5カ月サイクルの18カ月目になる。しかし、トランプショックの昨年11月安値が一たとえ日柄がが短いとしても一4年サイクルボトムで

あった可能性が高い。これが後者の見方である。

従来、最終 (第三) 15.5 か月サイクルボトムの想定時間帯は 2016 年 12 月 \pm 3 カ月、4 年サイクルのボトム想定時間帯が 2016 年 11 月 \pm 8 カ月であったので、2016 年 11 月 4 日の安値は想定通りとみなす事が出来る。その後の上昇から見ても、2016 年 11 月が 4 年サイクルのボトムであったと見るべきか。

【週間サイクル】

2年サイクルのハーフサイクルである 50 週サイクル (± 9 週、または 1年サイクル) は、その半分である 25 週 ($20 \sim 30$ 週) 2つか、17 週 ($13 \sim 21$ 週) のプライマリーサイクル (PC) 3つから形成される。また 15.5 カ月サイクルが支配的な場合は 22.3 週 ($18 \sim 27$ 週) サイクル 3つで構成される。

2015 年 8 月安値以降のサイクルはどうやら 3 つの 22.3 週サイクルで形成された模様。新 2 年サイクル及び新 15.5 カ月サイクルは第三 4 年サイクルと同時に 2016 年 11 月に始まったとすれば、少なくともその第一 PC、より妥当には第二 PC まで強気か。第二 PC のドップの時間帯は 2017 年 5 月~8 月。第二 PC のボトムの時間帯は 2017 年 9~10 月で年の習性とも一致する。

また新 15.5 カ月サイクルも強気と想定されるため、その日柄の大半(恐らく $9\sim13$ カ月)上昇基調が維持されよう。2016年 11 月を上昇の起点とすれば 2017 年 8 月で 9 カ月目。同年 6 月を起点とすれば 2017 年 7 月が 13 カ月目になる。従って今年は、日柄的に見て $7\sim8$ 月に重要な高値、10 月前後に重要な安値のターゲット時間帯が出現する公算が高いと見る事が出来よう。

なお、2016年11月起点の相場が最も強気であった場合は、2017年12月~2018年1月に天井が形成される可能性がある点には一応留意しておきたい。もっとも、そのケースは「7」という年の習性を考えると、サブシナリオとしておくべきだろう。

【結論】

サイクル上の結論として現在は第二 4 年サイクルの最終サイクルとしての第四 50 週サイクル、仮に 2016 年 11 月安値起点に第三 4 年サイクルが始まっていれば、その中の最初の 15.5 カ月サイクルの天井に向けて上昇中と見る事が出来る。どちらの場合でも日柄的には早くて 3 月、より妥当には 8 ~ 10 月のどこかのタイミングで天井が出現しよう。トップアウト後は「7」の年の習性として「激しく短い急落= 20 ~ 30%の下落を数日間、あるいは一日で発生させる」可能性が高い。

戦略としては 1 月初値は目をつぶって買い、 3 月までに急進するならポジションを減らし、急進しなければ満玉を維持し、 8 月の高値では一旦全買いポジションを外す。特に 6 月または 11 月の底値から $30\sim60\%$ 上昇していれば、非常に高い確率で大幅調整が入る可能性が高い。その次の投資チャンスは $10\sim11$ 月の安値となるのではないか。

なお、1月10日付の商品版投資日報ではシンセティックス分析もしてみた。ご興味の方はそちらもご覧戴きたい。

25年ぶりの高値に向けて

昨年から引き続き、1995~96年の日経平均株価のフラクタルを参考に分析してみる。昨年末の本稿では"大発会大幅続伸の期待"と題して「注目すべきは1996年の大発会は19,945円で始まり、引け値が20,618円と前年末比750円高の大幅値上がりとなった。その勢いは6月まで続き、そこで22,750円の天井を付けた。これが年末年始に発生する可能性がある。1996年大発会同様、2017年1月大発会が大幅続伸となれば、700円高も想定内」。

年末安値 18,991 から大発会高値 19,594 まで 603 円高と上伸。95 年末からの流れを引き継いでいる。

あとは為替の援護射撃が必要だが、トランプ政権移行後、米 経済を繁栄させようとするならドル安が望ましいが、米景気が 好調なら金利高からドル高の動きは避けられない。トランプ政 権が何処までドル安へと口先介入するか判らないが、米経済の 繁栄とドル高が維持されるようであれば、NYダウが急落しな い限り、日本も円安、株高が続こう。そうなれば 1996 年相場 の如く、年央に向けて堅調な動きが想定される。但しユーロ圏

今週の過程し

ユーロドル買い転換

先週末発表された昨年12月の米雇用統計。非農業部門雇用 者数(NFP)は前月比15.6万人増と市場予想の17.5万人を 下回ったが、前月分が17.8万人増から20.4万人増に上方修正。

6年連続で年間を通して200万人を超える雇用が創出され、12月の平均時給は前年同月比で2.9%増加と09年6月以来で最大(ブルームバーグ)という結果に米国株式は買われ、NYグウは、一時19,999.63 %まで上昇した。ドル指数も上昇。ただダウと異なり、この日の高値は3日の高値を超えていない。

米ドルは昨年12月中旬以降103ポイントの後半に入ると売られる傾向がある。ドル/円相場も107.50を超えると頭が重くなる。その間、ユーロ/ドルは下値を固めている。

当欄では売り方針であったこの相場は、先週3日に1.0341まで下落したが、この時15日スローストキャスティクスは12月の水準よりも高く「強気オシレーターダイバージェンス」が発生。短期買いシグナルが点灯。実際ここから上昇している。

今週の主な予定・経済統計

1月9日(月)

- ・【日本】成人の日で休場
- ・ボストン、アトランタ各連銀総裁が講演

1月10日(火)

· 米 3 年債入札

(240 億%)

1月11日(水)

- ・1月の米卸売在庫
- (前月比 0.9%増の予想、前回は 0.9%増)
- ・トランプ次期大統領会見
- · 米 10 年債入札

(200 億 ドル)

1月12日(木)…満月

- ・米 30 年債入札 (120 億 %): 入札合計は 560 億 %,規模)
- · 米週間新規失業保険申請件数
- (前週は23.5万件)
- ・セントルイス、フィラデルフィア各連銀総裁が講演

1月13日(金)

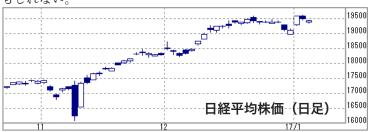
- ・昨年12月の米小売売上高 (前月比0.7増の予想、前回は0.2%増)
- ・昨年 12 月の米卸売物価指数(前月比0.3%増の予想、前回は0.4%増)
- ・同コア指数

(前月比 0.1%増の予想、前回は 0.4%増)

1月14日(土)

- ・イエレン FRB 議長、タウンホールミーティング参加
- ・フィラデルフィア連銀総裁、講演
- ・1月のミシガン大消費者信頼感指数 (98.5 の予想、前回は 98.2)
- ・昨年11月の米企業在庫 (前月比0.5%増の予想、前回は0.2%減)

で控えている選挙がリスクオンの流れを一時的に遮断させるかもしれない。こういったビッグイベントは昨年同様、何が起こるか予想困難。フラクタル分析では2017年相場が1996年相場を反映させるなら、2月1,000円幅、7~8月2,800円幅、12月~1月4,000円幅ときつい調整が3度発生する。ただ、当時と異なるのは60年サイクルの下降期と上昇期。96年の高値は現在も更新できていない。しかし60年サイクル、さらには新8年サイクルの上昇期に入っている現在、96年の高値22,750は最低限更新し、1991年以来の高値25,000円を目指すと予想する。現在は新8年サイクルの上昇期でもある。今年は早々にも、「日経平均株価25年ぶりの高値」一との見出しが新聞紙面を飾るやもしれない。



昨年末の当欄ではこう述べている"少なくとも、11月、12月の高値を結んだラインを引け値で突破しない限り売り玉は保持。1.0割れで利食いして様子を見たい。売りの日柄は満ちかけている。底打ちシグナルは引け値で69日移動平均を超えたところ。そのプルバックが買い場となろう"。昨年末、相場はこの11-12月ラインを高値で突破したがダマシで終わった。しかし3日安値出現後の反騰でこのラインと、23日移動平均を引け値で上回っている。先週末の雇用統計を受けて下落した場面は奇しくもプルバックという格好になった。

筆者は、昨年5月と8月の高値に起因する下降チャネルラインをベースにこの相場を見ていた。水星逆行が終了する今週、チャネルライン下限に復帰した相場は存外強いかもしれない。

まだ3日安値が長期相場サイクルボトムであったと断じるには時期尚早だが、少なくとも69日移動平均付近、もしくは昨年3月の安値水準(11月高値からの下げの半値戻し水準に近い)まで戻るのではないか。従って、これまでの売りを全て利食い、今週から買い方針に転換したい。なおその際の損切り水準は、先週3日の安値1.0341以下の引け値に置く。



今週の相場風林語録

相場は見えてくるもの【1】

相場を追っている時は相場の心がわからない。相場古金言に『待つは仁』というのがある。待つのは、ゆとりである。

今週の九星★波動

1月は波乱の相

南雲 紫蘭

年初来の強気相場。ですが、株は順調、為替は失速というと ころでしょうか。

特に為替は1月4日に発表された12月13~14日開催分の 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨によると、FOM Cでは「一部の海外経済の脆弱性」や「FF金利が下限に接近 している状況」に加え、「ドル相場の一段の上昇の可能性」が ダウンサイドリスクとして言及されたのです。

もちろん数人のメンバーは、ドル相場が更に上昇すればインフレ抑制効果の継続が見込まれると述べていますが、特に「ドルは日本円に対し約 10%、メキシコペソに対し5%上昇した」と名指しで記述があった事が相場参加者の気持ちを揺さぶったのでしょう。

更にいえば、やはりポジションがかなりドルロングに傾いている、という事もあるでしょう。

上野の直属の上司である牧山との軋轢と、彼に関する下原常 務への讒言は、下原をして上野を「組織人失格」と判断させた。

喧嘩両成敗どころか「上野の単純で純情な行動がむしろ上野こそが異分子でグループの輪を乱している」とした牧山の謀略に嵌められてしまった形となった。

ただ、7月に出された上野のシンガポールへの異動の辞令は 波紋を引き起こした。彼は確かに上司への工作は苦手であった が、部下に公平、上司には無私、そして仕事熱心であった。

顧客からの支持も厚いものがあり、幾つかの顧客は上野の異動を非常に残念がった。牧山の謀略が次第に明らかになるにつれて、若手を中心に牧山への反抗的な姿勢が更に強まった。

第六感の

サブサイクルボトムを買う

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

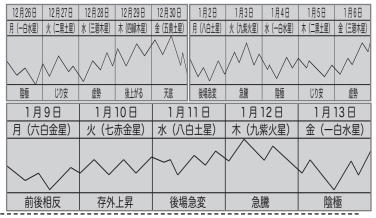
3月末まで天井は付けない

ドル円相場の目先は予定通り、サブサイクルボトムに向けた下げが入っている。昨年末のコメント「ただ $7 \sim 11$ 週サブサイクルが今週は 7 週目に入り、ボトムを付ける時間帯に入ってくる。一旦天井を付ければ $2 \sim 3$ 週の調整が入るのが通常の強気型サイクルのパターン。このパターンであれば、調整は上昇幅の $23 \sim 38\%$ 以内に留まる。11 月 9 日安値 101.19 が現行サブサイクルの起点になり、ここまでの高値は 12 月 15 日に付けた 118.56。従って、この高値が更新されるまでは上述の調整レベルは $114.60 \sim 111.98$ となる。 1 月調整が入れば、再び買いなる相場と見ている。サブサイクルベースでは 110 円を割りこんで引けるまでは買いが有利の相場」。

今週はサブサイクルの9週目。天井は12月15日118.56で付けた。現在はボトム模索中。雇用統計前の執筆になるが、高値が更新されれば新サイクルに入っていると考えられる。その前に何処まで調整するかだが、上述の目標値レンジの上限から下限まで、三段階に分けて買いたい。しかし下値目標値に届かず今週上伸して117円台に入れば、ストップを115円割れの引け値に設定して買いを狙う。このケースでは新サイクルの上昇期に入っていると考えられるので、最低でも3週間は上昇が続くと予想される。この場合の最低の目標値は120円台。

中期サイクルについては先週次の通りコメント「ドル円相場には中期として1年サイクルが存在している。この起点は6月

九星波動は1月5日から新月盤《九紫火星》に入っています。いわゆる「波乱天井」ですが、月盤は基本逆転していますから、いきなり急落するも1月中旬から乱高下しながらも、最終的には大幅上昇となる相とみます。年初来の急落は買い向かいと出ておりますが、どうか1月下旬の反転に期待したいものです。



そして事件は、牧山が月次で定例的に弁当を頼んで行う開く 為替グループとのミーティングの場で起こった。

いつものように牧山は、この会議で若手の意見を聞くふりを して実は全く妥協せず、意見も聞き入れず、時間だけが淡々と 過ぎて行く。

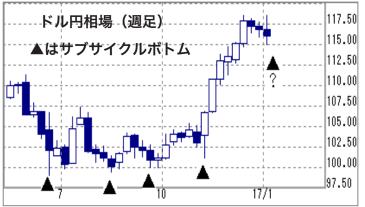
いつもなら牧山が「意見があれば言った方がよい」といって、 今回も「反論なし」として終わるはずであった。しかし、ここ で幾つかの非常に先鋭的な"意見"が出てしまったのである。

「牧山課長は、今後もこんなことを続けていくおつもりなのですか?」

「若手の意見を代表してくれる人間は、無用なのですか?」 「安定的な顧客と、カスタマー・ディーラーとの関係は続い ていくべきなのではないですか?」

「**そもそも、どんな理由で異動が決まったんですか?**」 そう、ここでついに若手の不満が爆発したのだ。

24日の99.04。次のボトムは17年6月24日±2カ月に到来する。この1年サイクルは新5年サイクルの第1位相。従って、中立型(センタートランスレーション)にならない限り、通常は爆発的な上昇を示す超強気型サイクルになる可能性が高い。この場合、天井を付ける時間帯はサイクル期間(1年)の76~84%の時間帯。つまり、今年6月安値から40週を過ぎてから天井が到来すると考えられる。今週はまだ27週目。このサイクル位相が正しければ、ドル円相場は2017年3月末までは天井は到来しないことを意味する。従って、1月以降調整が到来すれば、それは単なるサブサイクルボトムに向けた下げであり、一旦ボトムを付ければ、次の新サブサイクルの上昇期では現行サブサイクルの高値を更新すると予想される。このケースでは少なくとも2015年6月の高値をテストするか上抜くことも想定できる」。110円を引け値で割り込むまでは1年サイクルの上昇期が続いていると判断する。



サイクルだけ話します。

- メリマン・サイクル理論 備忘録 -

【第22回】ユーロ/ドル相場のサイクルについて(1)

2017年最初の当欄。思えば、昨年のドル指数やNY金のサ イクル解説は今回の解説のための布石であったと言えます。

ユーロと言う通貨が決済通貨になり、為替取引が始まったの が 1999 年 1 月、紙幣が市井に流通し始めたのが 2001 ~ 2002 年ですから、長期相場サイクル分析するほどの日柄がありませ ん。そこでドル指数やNY金の日柄と比較する必要があります。

更にドイツマルクをベースにした数値も参考にすると、ユー 口は対ドルで16.5年長期サイクルがあると見られています。 史上最安値は 2000 年 10 月 26 日の 0.823。ここをボトムとし て過去の相場を振り返ると1995年2~3月に底値を確認する 事が出来、ここまでの日柄が約16年です。

そして今月は00年10月安値から起算して16年と3カ月目。 しかも先週3日に安値が更新されています。この安値が長期サ イクルボトムであったと断じるには時期尚早ですが、少なくと も 2017 年は、ユーロ/ドル相場が 16 年レベルの大底をつける 時間帯に入っている、という事は出来るでしょう。



メリマン通信 一 金融アストロロジーへの誘い -

星回りから見た目先の日経平均株価

金融版投資日報も今号が年内最初。休み中のアストロロジー 的な注目点はやはり 12月19日~2017年1月8日の水星逆行 と、その間の天体位相であったといえる。逆行中間点付近では 日経平均株価が急落して反発(12月30日)。金星サインチェ ンジがあった1月3日にドル/円相場は高値、ユーロ/ドル相 場は安値をつけて反転している。

当欄はまさに水星逆行終了日当日(1月8日)に執筆してい るが、今週注目すべきは前回のレポートで記述した【5日】上弦、 【7日】太陽・冥王星コンジャンクション、【10日】太陽・天王 星スクエア、【12日】太陽・木星スクエア、満月、水星サイン チェンジ (射手座→山羊座) 【12~13日】 金星·海王星コンジャ ンクションの時間帯。このうち7日、10日、12日は『フォーキャ スト 2017』で要注目されていた「木星・天王星・冥王星T字

スクエア」の太陽トランスレーションに相当する。

このT字スクエアは11月25日の木星・冥王星スクエアと、 12月27日の木星・天王星オポジションの2つの組み合わせに よるものだが、日経平均株価に限って言えば、両天体位相発生 時から数日の相場は下げている(前者は軒並み陽線であったが)。 従って星回りからみると、日経は週初こそ高値を指向する可能 性はあるが、総じて週末にかけ安値を指向するのではないか。

またこの相場に関して、短期トレーダはこれ以外に火星の動 きに注目するとよいかもしれない。火星は昨年8月3日に射手 座、9月27日に山羊座、11月9日に水瓶座、12月19日(水 星逆行開始日)に魚座にサインチェンジした。実勢相場は8月 4日に安値、9月27日に安値、11月9日に安値、12月21日 に高値が出現している。現在魚座に入居している火星が牡羊座 にサインチェンジするのは1月28日。まさに水星逆行シャドウ 期が終わる時間帯にあたる。星で上下を推測する事は出来ない が、この付近は何らかの節目の時間帯になるのではないか。

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。 Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

「サイクル」「アストロロジー(占星学)」「テクニカル」 この3本柱で2017年の動向を予測!

アストロロジーでは2017年の水星および金星逆行の解脱に加え、有力政治家の出生図やFRB、NYSE、そして米国の始原図から予測、主要天体位相の発生時間と始原図とを重ね「何故での時期は重要なのか」を解明、「フィーキャスト2016』目玉解脱の土星、海王星ウェイニングスクエアは終了したが、その影響は2017年中もまだ残る。メリマン氏はこの点を「世界無責任時代(ただし、もれなくスケーブコート付き)」という調題をつけて"土星はコントロール、統御を意味する。特に、政府や金融界のリーター達のように権力の産にある人々が持つ、統制への欲求・衝動を象徴。しかし海王星は境界など知らないし、とりわけ境界線、限界、統領という意識が次落している。・状況が制御不能となりヒステリー状態になっていくという一連の反応は、何も中央銀行とインフレーションの問題に限ったことではない。と述べていた。2016年に起きた事象は"制御不動"と"無責任"という言葉の保証、行いるのよりには、100円では、10

あるは、このプロスはの状形に切ったがあった。 らくこのスクエアの解説も行いつつ、次の一手が予測されるのではないだろうか。 つかの主要相場では長期相場サイクルの節目に入っており、アストロロジーとサイクル、どちらでも必読の

レイモンド・メリマン 著 秋山日揺香・投資日報編集部 訳 投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

メリマンCDと併せて、ただいま絶賛発売中!

क्षण्डिकः: 投資日報出版(株)\ http://www.toushinippou.co.jp/

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11GRANDE 人形町 6F 電話: 03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み!! 今週のアストロロジー info

1月9日(月) 相場世界、楽観者は大儲けすることもあるが、 大損することもある

1月10日(火) 1月6日の流れが続く

市場により二段下げか二段上げが始まる 1月11日(水)

1月12日(木) 株式は良好な状況

1月13日(金) 小動きもやや鋭角的上下動多発

1月14日(土) 相場世界、過去の間違いが今の正解になったりする

1月15日(日) サイクルは現在浮上していない波を予測する

2017年最初の勉強会! 参加申し込み受付中! 2017年 新春

ヤストの谷の絹へ

勉強会の新年第一回目では、『フォーキャスト2017』を参照しながら、株式市場、通貨市 国際商品市場の中から「どの銘柄を、どのタイミングで、どこで、どのように儲けて行くか」 いう問題を、サイクル・アストロロジー・テクニカルの3本柱で分析、顔木自身の風幣も織り ぜながら、午前・午後の二部構成で解説します!講演後にはご質問にも出来る限りお答えします

講師 株式会社投資日報社代表取締役 鏑木 高明

貸会議室日本橋清新丹 会場

2017年1月28日(土) 11:00~15:00

定員 参加費

50名 14,040円(稅込)

■ 詳細・お申し込みは >> http://www.to (株) 投資日報社 電話:03-3669-0278